



## 安全データシート (SDS)

### 1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当  
TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2019/07/03  
SDS整理番号 05181250

製品等のコード : 0518-1250

製品等の名称 : 2-エチルヘキシルアミン (オクチルアミン)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
合成中間体、医薬品・染料中間体、界面活性剤、ゴム薬品、石油添加剤、  
殺虫剤の原料 など



### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性  
引火性液体 : 区分3  
自然発火性液体 : 区分外

健康に対する有害性  
急性毒性 (経口) : 分類できない  
急性毒性 (経皮) : 分類できない  
皮膚腐食性・刺激性 : 区分1A  
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分1

環境に対する有害性  
水生環境急性毒性 : 区分3  
水生環境慢性毒性 : 区分3

注意喚起語 : 危険

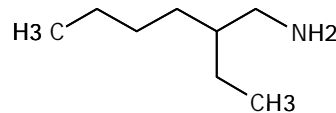
危険有害性情報  
引火性の液体及び蒸気  
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
重篤な眼の損傷  
水生生物に有害  
長期的影響により水生生物に有害

#### 注意書き

##### 【安全対策】

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。  
容器を密閉しておくこと。  
容器を接地すること、アースをとること。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。  
火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
ミスト、蒸気などを吸入しないこと。  
取扱い後は、よく手を洗うこと。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
環境への放出を避けること。

##### 【応急措置】



飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。  
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。  
 皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。  
 眼に入った場合：水で30分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。  
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

## 【保管】

日光を避け、遮光した容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	:	単一製品
化学名	:	2-エチルヘキシルアミン (別名) オクチルアミン、2-エチル-1-ヘキサミン、 2-エチルヘキサン-1-アミン (英名) 2-Ethylhexylamine (EC名称)、Octylamine、 2-Ethyl-1-hexanamine、2-Ethylhexan-1-amine、 1-Hexanamine、2-ethyl- (TSCA名称)
成分及び含有量	:	2-エチルヘキシルアミン、 98.0%以上
化学式及び構造式	:	CH <sub>3</sub> (CH <sub>2</sub> ) <sub>3</sub> CH(C <sub>2</sub> H <sub>5</sub> )CH <sub>2</sub> NH <sub>2</sub> 、 C <sub>8</sub> H <sub>19</sub> N、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	129.25
官報公示整理番号	:	(2)-133
化審法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
安衛法	:	
CAS No.	:	104-75-6
EC No.	:	203-233-8
危険有害成分	:	2-エチルヘキシルアミン ・労働安全衛生法 危険物・引火性の物 ・消防法 危険物第4類引火性液体 第二石油類 非水溶性

## 4. 応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。 皮膚刺激などが生じた時、気分が悪い時は医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに医師に連絡する。 直ちに、水で30分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で拵げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。 眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	:	直ちに口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。 吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。 また、本品の蒸気圧が高いため、無理して吐かせると蒸気などが肺に入り高熱がでて出血性肺炎を引き起こす危険性がある。 直ちに、コップ数杯の牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。 牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。 意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

#### 5. 火災時の処置

- 消火剤 : 本製品は可燃性、引火性であり、極めて燃焼しやすい。  
水噴霧、二酸化炭素、泡消火剤、粉末  
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大する可能性があるため)  
特有の危険有害性 : 引火性が高い。  
極めて燃え易いので、熱、火花、火炎で容易に発火する。  
引火点(53℃)以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。  
本品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがある。  
遠距離引火の可能性がある。  
屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。  
加熱により容器が爆発するおそれがある。  
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。  
消火水は汚染を引き起こすおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を遮断する。  
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。  
消火の効果がないおそれがある場合は散水する。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。  
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。  
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。  
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。  
回収、中和 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。  
大量の場合、盛土で困って流出を防止し、液面を泡で覆い密閉できる容器などに回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。  
漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。  
蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
- 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。  
周辺の発火源を速やかに取除く。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

#### 7. 取扱いおよび保管上の注意

- 取扱い  
技術的対策 : 裸火禁止、火花禁止、禁煙。  
強力な酸化剤との接触禁止。  
53℃以上では、密閉系、換気、および防爆型電気設備が必要。  
摩擦や衝撃を与えない。  
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。  
身体とのあらゆる接触を避ける。  
空気と混合すると、爆発の危険性がある。  
漏洩すると、爆発する危険性がある。  
指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。  
指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。  
指定数量の1/5以上、1未満(少量危険物)の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。  
指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。  
炎、火花または高温体との接触を避ける。  
本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気  
安全取扱い注意事項 : 防爆型の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。

		周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの 取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	:	炎、火花または高温体との接触を避ける。
保管	:	保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の 軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な 傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	:	光のばく露や高温多湿を避けて保管する。 容器は遮光し、冷暗所に密閉して保管する。 換気の良い場所に保管する。 施錠して保管する。
混触危険物質	:	本品を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。 強酸化剤(硝酸塩、塩素酸塩、過氧化物、過塩素酸塩など)、 強酸
容器包装材料	:	ガラスなど

<参考> 室温での容器包装材料の耐薬品性(あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要)

本品のデータなし。  
類似化合物のn-ブチルアミン(CH<sub>3</sub>(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub>NH<sub>2</sub>、CAS No.109-73-9)のデータを示す。

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 x:不良 -:データなし 】

スチレングム× クロロプレンゴム(ネオプレン)× ニトリルゴム× ブチルゴム×  
天然ゴム× シリコンゴム フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)× テフロン  
軟鋼- ステンレス(SUS304- SUS316-) チタン アルミニウム- 銅-  
軟質塩ビ- 硬質塩ビ- ポリスチレン- ABS- ポリエチレン- ポリプロピレン-  
ナイロン- アセタール樹脂- アクリル樹脂× ポリカーボネート- ガラス

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	:	設定されていない。
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):	:	
日本産業衛生学会(2018年版)	:	設定されていない。
ACGIH(2018年版)	:	設定されていない。
設備対策	:	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 引火点の53 以上では、密閉系、換気および防爆型電気設備を使用する。 帯電を防ぐ(例えばアースを使用)。 作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。
保護具	:	
呼吸器の保護具	:	呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク)を着用する。
手の保護具	:	保護手袋(シリコン製、ネオプレン製など)を着用する。
眼の保護具	:	保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
皮膚及び身体の保護具	:	長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	:	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	:	無色の液体
臭い	:	特異臭(アミン臭)
pH	:	弱塩基性
融点	:	-76
沸点	:	169
引火点	:	53 (密閉式)
爆発範囲	:	下限 1.1 vol%、 上限 データなし
蒸気圧	:	187 Pa (25 )

蒸気密度 (空気 = 1) : 4.5  
 密度 : 0.786 ~ 0.791 g/mL (20 )  
 溶解度 : 水にほとんど混和しない (溶解しない)。  
 エタノール、アセトン、四塩化炭素、クロロホルムに混和 (可溶)。  
 オクタノール/水分分配係数 : log Pow = 2.82  
 自然発火温度 : 295  
 分解温度 : データなし  
 粘度 : データなし

## GHS分類

引火性液体 : 引火点53 [密閉式] (ホンメル (1996)) は 23 かつ  
 60 であること、また、UNTDG (UN2276) で  
 クラス3 副次危険 8 PGIII であることから、区分3とした。  
 引火性液体及び蒸気 (区分3)  
 自然発火性液体 : 発火点は295 であり (ホンメル (1996))、常温の空气中で  
 自然発火しないと考えられるので、区分外とした。

## 10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の実験条件において安定である。  
 空気中の二酸化炭素を吸収する。  
 光や空気中の酸素により、徐々に黄褐色に変色する。  
 危険有害反応性可能性 : 水溶液は弱塩基性で、強酸と激しく反応することがある。  
 強酸化剤と反応し、火災および爆発の危険をもたらすことがある。  
 水共存下で、多くに金属を侵すことがある。  
 ある種のプラスチック、ゴムを侵すことがある。  
 加熱や燃焼により分解し、窒素酸化物などの有毒なヒュームを生じる。  
 ガス/空気の混合気体は爆発性である。  
 蒸気は空気より重い。地面あるいは床に沿って移動することがある。  
 遠距離引火の可能性がある。  
 避けるべき条件 : 高温、日光、湿気、裸火、スパーク、静電気  
 混触危険物質 : 強酸化剤、強酸  
 危険有害性のある分解生成物 : 加熱すると分解し、一酸化炭素、窒素酸化物等の有毒なガスを発生する。

## 11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 データ不足で分類できない。  
 なお、ラットのLD50 = 450 mg/kg (RTECS (1997))のデータがある。  
 経皮 データ不足で分類できない。なお、ウサギのLD50 = 600 µL/kg  
 (換算値: 474 mg/kg) (RTECS (1997)) のデータがある。  
 吸入 (蒸気) データがないため分類できない。  
 吸入 (ミスト、粉じん) データがないため分類できない。  
 皮膚腐食性・刺激性 : 本製品は腐食性の液体であるとの記述があり (PATTY (5th, 2001))、  
 区分1 Aとした。なお、ウサギを用いたDraize test (24時間適用) で  
 「severe」との結果 (RTECS (1997)) がある。  
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 (区分1A)  
 眼に対する重篤な損傷・刺激性 : 本製品は腐食性の液体であるとの記述があり (PATTY (5th,  
 2001))、また皮膚腐食性物質に区分されていることから区分1とした。  
 なお、ウサギを用いたDraize testで「severe」との結果 (RTECS  
 (1997)) がある。  
 重篤な眼の損傷 (区分1)  
 呼吸器感受性又は皮膚感受性 :  
 呼吸器感受性 : データがないため分類できない。  
 皮膚感受性 : データがないため分類できない。  
 生殖細胞変異原性 : データ不足のため分類できない。  
 なお、in vivo 試験のデータはない。in vitroのAmes試験で陰性  
 (NTP DB (Access on Oct, 2009))の報告がある。  
 発がん性 : 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際  
 評価機関の報告がないため、分類できないとした。  
 生殖毒性 : データがなく分類できない。  
 特定標的臓器・全身毒性  
 (単回ばく露) : データがなく分類できない。  
 特定標的臓器・全身毒性  
 (反復ばく露) : データがなく分類できない。  
 吸引性呼吸器有害性 : データがなく分類できない。

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 : 甲殻類 (オオミジンコ) による24時間EC50=18mg/L (AQUIRE, 2010)  
 であることから、区分3とした。



える。

緊急時応急処置指針番号 : 132

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	: 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)
消防法	: 危険物第4類(引火性液体)、第二石油類 非水溶性、指定数量1000L、危険等級
毒物及び劇物取締法	: 非該当
化学物質管理促進法(PRTR法)	: 非該当
船舶安全法	: 引火性液体類
航空法	: 引火性液体
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 Y類物質(施行令別表第1)
水質汚濁防止法	: 生活環境項目(施行令第三条第一項) 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」 〔排水基準〕160mg/L 以下(日間平均 120mg/L 以下) 「窒素の含有量」 〔排水基準〕120mg/L 以下(日間平均 60mg/L 以下) (注)排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合はそれに従うこと。
輸出貿易管理令	: 別表第1の16項(キャッチオール規制) 第29類 有機化学品 HSコード(輸出統計目番号、2019年4月1日版): 2921.19-000 「非環式モノアミン - その他のもの」

## 16. その他の情報

(注)本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献	:
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。